

## 令和元年度社会福祉法人ひらか福社会事業報告

### 1. 社会福祉法人ひらか福社会

新規事業も軌道に乗り、それぞれが地域に必要とされる事業となってきた。また、そこで働く職員自身もひらか福社会の一員として安心して働いてもらっていると感じている。

既存施設の運営においては、あやめ苑では前年度より収入増となり、収支差額においても人件費の減少もあり前年度比165%の伸びとなった。全体としても収入が110%増加、収支差額は前年度はマイナス1803万円であったが、今期は4233万円もの収益があった。

今後は放課後等デイサービスの需要がさらに伸びている状況であり、必要とされている地域で次施設の開設に向けて取り組んでいきたい。

### 2. 特別養護老人ホームあやめ苑・ショートステイあやめ苑

「地域に出て行こう！」を目標に、地域に出てあやめ苑の情報発信すること、地域の仲間になることを重点目標に再び取り組んできた。

『プロ意識の向上と全員接客』については、まずは私たちを理解していただく前に自分たちを磨こうと全員接客ができる施設にするため、接遇マニュアルを策定・実施した。常に見られている仕事だということをみんなで認識でき、プロ意識を持って「いつも明るく迎え入れてくれるあやめ苑」としての認知向上を目指している。一方、専門知識・技術のスキルアップのための外部研修は、期の前半で十分な人員補充が出来ず、参加させることができなかった。今後は職員の意欲向上のためにも、外部を知る研修への参加促進に努めていきたい。

『SNSを使った新鮮な情報提供』については、職員目線で利用者さまとの関りを可能な限りタイムリーに情報発信した。個別にリアクションしてくれる方もおり、情報の伝え方の気付きに繋がった。また、地域の一員として認知度を上げていくためには、まだまだ自分たちの活動不足が課題。今後は地域の方々に知っていただける手法で、地域の方々と関わりを持った情報発信ができるような活動をしていきたい。

総括としては、何をやるにも課題を明確にするためには情報収集が必要であり、情報収集するためには行動力が必要となる。様々な事情で動きは鈍るが、それに負けないチームワークと行動力を持って来期の課題に取り組んでいく。

#### 【稼働率目標と実績】

- ・特別養護老人ホームあやめ苑（29床） 目標）95.00%/実績）99.11%  
細かな変化に気づき事前受診につなげるなどした結果、単月満床の月が7ヶ月

月と安定した利用となった。特養入所の短期間化と併設ショートステイの空床利用上手に運用できた。

・ショートステイあやめ苑（14床） 目標）95.00%/実績）81.44%

昨年度と打って変わり、定期利用の体調不良者の増加や長期利用者の増加などの影響で、抜けると穴埋めに苦慮する時期が続いた。一方で新規利用者獲得にも奔走し確実に利用者数は増やしたが、長期の穴埋めには追い付かない状況だったものの、徐々に定期利用となり年度末には稼働率も回復傾向となった。

### 3. ショートステイかがり火

今年度は昨年度よりも年間平均で稼働率の低下が見られている。原因としては7月・8月の稼働率の低下があるが、長期利用者の特養等への入所と医療重度者の夏の暑さによる入院等が続き、稼働率の低迷へとつながった。しかし、要介護度が上がった為、稼働率は下がったものの収入では昨年度より多くなった。

今年度も昨年度同様に地域のいろいろな研修や会議に介護職員も参加した。他施設の職員や他職種との連携について、研修に参加した職員からは重要性を再認識したと報告が上がっていた。また、接遇の研修を行ったことにより、利用者様へより意識した丁寧な対応を心掛ける様子が見られていた。

昨年度より課題となっている利用者の忘れ物や同じような事故報告であるが、忘れ物防止については用紙等の変更により以前よりも減って来ているがまだ繰り返されている。事故報告についてもマニュアルの再度の見直しを行い大きな事故へつながっていない為、職員の意識継続が必要であると各委員会より年度反省があり、引き続き来年度の課題となった。

企業主導型保育園（kagaribi kidz）と色々な行事を合同で行うことが出来て利用者様の笑顔も増えていた。

稼働率目標と実績（定員 30名）

目標 年間稼働率 95% （1日平均 28.5人）

実績 年間稼働率 92.57%（1日平均 27.77人）

### 4. ケアプランセンターかがり火

昨年度同様3人体制で居宅介護支援事業を行っている。また、医療重度の利用者様や単独独居の利用者様、困難事例と言われる利用者様の引き受けを行い、家での看取りを行ったケースも増えてきている。住宅改修等の依頼も増え、介護以外の業種との連携もとれるようになり、ケアマネとしてのスキルも向上してきたと自負している。来年度はさらにケアマネを増やし、全員で同じように対応できるようにスキル向上を目指すと共に、何時でも立ち寄り相談

しやすい事業を目指し、関係機関や地域との連携・連絡体制を強化して行きたい。

#### 5. 企業内保育園 kagaribi kidz (かがり火キッズ)

昨年度同様、今年度も職員の子どもがほぼ 8 割を占める運営となった。年齢層は少し上がり、2 歳児～年長者までおり、元気な声を駐車場や施設内で聞くことが出来た。ショートとの合同行事も昨年度より多く行いショートの利用者様との交流や夏祭りでの演目披露も行った。また、地域の商店街へも出かけ地域の人との交流もすることが出来た。

昨年度に比べ地域の子どもも増えている。新年度の課題として、施設職員の子どもが少なくなる為、地域の子どもの入所に向けて広告やチラシ等の再作成を行い一時保育利用の子どもが増えてきている。一時保育から入所児童へ移行する子どもも多くいるため、入所・一時に関わらず同じように対応を行い、新年度に向けて取り組んでいきたい。

#### 6. AKITA トレーニングセンター

初めて1年を通しての運営となり、徐々にデイサービスの利用者数も増加し、現在は80人を超える利用者様が利用されている。各居宅支援事業所への営業活動や地元の納涼祭や芋煮会、クリスマス会など地域の方々に施設の名前を覚えてもらおうと努力した結果、1月に入ってから利用者様が増加傾向にあったが、新型コロナウイルスが流行してからは利用者様も利用を自粛されたりと利用者数は伸びなくなった。一般トレーニングの利用者様もデイサービスと同様に利用者数が増加していたが、3月頃から新型コロナウイルスの影響で利用を自粛される方が見られ、利用者数も伸びなくなった。今後はコロナウイルスの話題が尽きない中、メディアでは運動の重要、必要性を訴える声も聞かれるため、トレーニングセンターでもSNS等を用いて積極的に情報発信をしていき、地域に根差した施設運営に向かうと同時に、現在も行っているコロナウイルス感染予防対策を引き続き実施していきたいと思う。

目標と実績 目標) 契約人数 120人 実績) 契約人数 83人

#### 7. 放課後等デイサービスキッズスポーツ

トレーニングセンターと同様に初めて1年を通しての運営となり、徐々に児童の数も増加し、現在は20人の児童が利用されている。3月から新型コロナウイルスの影響で市内の学校が一斉休校となり、キッズスポーツでも学校休校日対応を行っていた。外出支援も限られた範囲で行ったり、新たにプロジェクターをパソコンにつなぎ、ユーチューブ等で流行しているダンスや体操を流して取

り組むバーチャルトレーニングを始め好評だった。また、学年別の療育を取り組み実践できたことで、身体機能の成長が見て取れる児童が多く見られ、学校の先生や事業所の相談員、保護者の方から喜びの声が聞かれた。今後は、限られた空間での療育の内容の検討や、広い療育スペースを確保した新事業所を検討していきたい。